

令和元年度自己評価計画書

石川県立内灘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判断基準	備考(時期・対象)
1 生徒一人ひとりの実態把握を通して、基本的な生活習慣の確立を図る。	① 積極的な声かけ・挨拶を通じて、円滑な人間関係の構築を図る。	全教職員	コミュニケーションの初歩である挨拶が苦手な生徒がみられる。自ら進んで元気な挨拶ができる生徒が少ない。	【成果指標】 授業の挨拶等ができた生徒の割合	授業の挨拶等ができた生徒の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	C・Dなら検討	7月及び12月に調査 生徒 教員
	② 無断欠席・遅刻防止のために、家庭との連携を密にするとともに、学校全体として「時間を守る」生活習慣を身につけさせる。	生徒課 各担任	平成30年度は、平成29年度から遅刻件数10回以上の遅刻者が半減したが、まだ多いと言える。	【成果指標】 年間10回以上遅刻する生徒の数を昨年度の23名より半減する。	年間遅刻回数10回以上の生徒数が A 12名未満 B 12名～17名 C 18名～23名 D 24名以上	C・Dなら検討	7月及び2月に調査 生徒課
	③ 多様な生徒がいることを相互に認め合う環境作りに取り組む。	保健相談課 全教職員	学習や人間関係に支援の必要な生徒が各クラスに見られる。	【成果指標】 個別支援計画の案を1学期末までに完成し、保護者懇談で保護者と確認しあう。	個別支援計画の案の作成が1学期末までに完成できたクラスが A 90パーセント以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	C・Dなら検討	2月に調査 相談室
	④ 人権尊重・いじめ防止に関するさまざまな課題に取り組む。	生徒課 相談課 全教職員	学校全体でいじめに速やかに対応するという雰囲気が徐々に醸成されてきている。	【満足度指標】 「いじめがなく安心できる学校である」と感じている生徒の割合が高い。	「いじめがなく安心できる学校である」と感じている生徒の割合が A 95%以上 B 90%～94% C 85%～89% D 85%未満	C・Dなら検討	12月に調査 生徒
	⑤ 自転車乗車マナーの向上を通じて、規律を尊重する態度を養う。	生徒課 各学年	交通安全教室の実施や全校集会での呼びかけなどにより、指導件数が激減した。今年度も昨年と同様の指導を考えている。	【成果指標】 県警による交通違反指導件数を昨年度の17件より半減する。	年間交通違反指導件数が A 9件未満 B 9件～10件 C 11件～12件 D 13件以上	C・Dなら検討	2月に調査 生徒課
学校関係者評価委員会の評価							
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法							
2 生徒の基礎学力定着に向けたICTの効果的活用法やアクティブ・ラーニングの視点に立った授業法などを学年や教科で共有し、効率的な授業力向上を図る。	① 基礎学力の定着のために授業の進め方や授業内容の工夫改善を図る。	教務課 各教科	学習能力の差が広がり、個々の生徒に応じた細やかな授業の進め方や教材の工夫が必要である。	【成果指標】 個に応じた指導や教材、教具の工夫によって、授業内容がよく分かったと答える生徒の割合	授業がわかりやすいと感じた生徒の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	C・Dなら検討	7月及び12月に調査 生徒
	② 年間を通して、全教師が互いの授業を参観し、課題意識を持って授業改善に取り組む。	教務課 各教科	学習能力の差が広がっている。個々の生徒に応じた細やかな授業の進め方や工夫が必要である。	【成果指標】 教員同士が意欲的に授業を参観し、参観後は授業者の授業改善の基になる授業参観シートを提出	互見授業をした平均回数が A 10回以上 B 7～9回 C 4～6回 D 4回未満	C・Dなら検討	7月及び2月に調査 教員
	③	教務課 各教科 各学年	ICTを活用や協働活動、双方向型の授業スタイルや思考を促す発問などの授業改善に取り組む。	【成果指標】 全ての教員がICTの活用や協働活動の導入、双方向型の授業などを実施し、教科会で報告し授業改善に活かす。	ICTの活用や協働活動、双方向型授業などを取り入れて工夫が見られるとする肯定的評価が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	C・Dなら検討	7月及び12月に調査 教員 生徒
	④ ワークライフバランスやタイムマネジメントの意識を常に忘れず、授業や分掌の業務を効率的かつ効果的に遂行する。	教頭	学校として時間外勤務時数は県平均を下回っているが業務の効率的な遂行という点では改善の余地がある。教科による共有教材の作成など個人の負担軽減につなげたい。	【成果指標】 ワークライフバランスやタイムマネジメントを意識して業務に取り組み、時間外勤務を縮減する。	ワークライフバランスやタイムマネジメントを意識して業務に取り組んだ結果、時間外勤務を縮減できたという肯定的評価が A 95%以上 B 85%～94% C 75%～84% D 75%未満	C・Dなら検討	7月及び12月に調査 教員
学校関係者評価委員会の評価							
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法							

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判断基準	備考
3 最新の進路情報の提供や同窓会との積極的連携により、社会人としての心構えを学び、早期から進路意識の高揚を図る。	① 3年間を見通した指導計画に基づき、能力・適性に応じた支援・指導を、外部人材の助力も得ながら行う。	進路課 各学年	具体的な進路を考えている生徒の割合が少ない。	【成果指標】 自分の進路に関心を持つようになり、将来を前向きに考えられるようになった生徒の割合	進路意識が向上した生徒が A 85%以上 B 65%～84% C 45%～64% D 45%未満	C・Dなら検討	7月及び12月に調査 生徒
	② ハローワークや地域の企業等と連携して、就業の支援・指導を行う。	進路課 各学年	生徒の特性を活かした進路指導につながっていない。就職を希望している生徒の希望先や就職後の人生設計が具体的でない生徒が多くみられる。	【成果指標】 2月末現在の就職決定率	就職希望者の決定率が A 100% B 95%～99% C 90%～94% D 90%未満	C・Dなら検討	2月に調査 進路課
	③ 最新の進路情報を提供し、適性に合った進路実現につなげる。	進路課 各学年	進学先や学びたい学問を決定することが出来ない生徒が多くみられる。	【成果指標】 2月末現在の進学決定率	進学希望者の決定率が A 100% B 95%～99% C 90%～94% D 90%未満	C・Dなら検討	2月に調査 進路課
学校関係者評価委員会の評価							
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法							
4 地域から信頼され、必要される学校となるために、地域行事に積極的に参画し、地域防災にも貢献する態度を養う。	① 学校への関心・理解を深めるため、PTA総会や学校公開週間、文化祭等の参加者を増加させる。	総務課 教務課	昨年より来校者（保護者・地域の方・同窓生）は、文化祭などの行事や地域交流事業で増えてきている。	【成果指標】 来校者（保護者・地域の方・同窓生）の延べ人数及びPTA総会の来校者数	来校者（保護者・地域の方・同窓生）の延べ人数が A 700名以上 B 650名～699名 C 600名～649名 D 599名未満 PTA総会の来校者数が A 50名以上 B 40名～49名 C 30名～39名 D 30名未満	C・Dなら検討	2月に調査 総務課
	② 地域活動へ積極的に参加するとともに、地域と連携した課外活動やボランティア活動・防災活動を企画・実践する。	生徒課 各部顧問 総務課	「清風隊」を中心に、地域貢献活動を行っている。学校全体で地域と連携した活動を行い、学校の活性化に繋げたい。	【努力指標】 地域に出向いて連携した活動の回数及び参加した生徒の延べ人数	地域に出向いて連携した活動の回数が A 30回以上 B 25回～29回 C 20回～24回 D 20回未満 参加生徒の延べ人数が A 1000名以上 B 900名～999名 C 800名～899名 D 800名未満	C・Dなら検討	2月に調査 生徒課 総務課 進路課
	③ 地元中学校との交流を企画し、体験入学などを通して本校をPRする。	教務課 総務課	生徒による地域中学校との交流が少なかった。体験入学でも参加者が少なかった。	【成果指標】 体験入学や学校公開等に参加する中学生の延べ人数 地域の中学校との交流企画の回数	中学生の参加者数が A 750名以上 B 700名～749名 C 650名～699名 D 649名未満 地域の中学校との交流の回数が A 10回以上 B 8回～9回 C 6回～7回 D 6回未満	C・Dなら検討	2月に調査 教務課 総務課
学校関係者評価委員会の評価							
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法							